

TOSHIBA

東芝パッケージエアコン〈天井カセット形1方向吹出しタイプ〉  
据付説明書



R32冷媒機種  
業務用

- ＜室内ユニット＞

AIU-GP401SH AIU-GP631SH  
AIU-GP451SH AIU-GP711SH  
AIU-GP501SH AIU-GP801SH  
AIU-GP561SH

組合せ室外機はカタログをご覧ください。
- ＜天井パネル：別売品＞  
RBC-US21PG(W)-1

＜リモコン：別売品＞  
RBC-AMSU\*\* (省エネneoリモコン)  
RBC-ATX41 (ワイヤレスリモコン)  
RBC-AXRU41C (ワイヤレスリモコン受信部)

お知らせ

- このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系R32冷媒を使用しています。
- 本説明書は室内ユニット側の据付工事方法を記載してあります。
- 室外機の据付けは、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- この室内ユニットはR32冷媒用です。必ず対応する冷媒用の室外機と組み合わせてください。
- 天井パネルとリモコンは別売です。取付けは、各別売品に付属している取付説明書に従ってください。
- ワイヤレスタイプは、ワイヤレスリモコン（別売）とワイヤレスリモコン受信部（別売）をそれぞれ購入して、室内ユニットへ取り付けてください。
- 本説明書は、RBC-AMSU52リモコンを接続した場合の操作方法を記載しています。RBC-AMSU52以外のリモコンを接続する場合は、リモコンに付属の説明書をご覧ください。
- 別売リモコンの詳細設定内容は、リモコンに付属している据付説明書をご覧ください。

付属部品

部 品 名	個数	形 状	用 途	部 品 名	個数	形 状	用 途
取 扱 説 明 書	1	—	(お客様に必ず渡してください)	ホースバンド	1		ドレンパイプ接続用
据 付 説 明 書	1	本紙	(お客様に必ず渡してください)	フレキシブルホース	1		ドレン配管芯出し調整用
据 付 用 型 紙	1	—	天井開口と本体位置確認用	断 熱 材	1		ドレン接続部断熱用
据 付 ゲー ジ	1		天井開口と本体位置確認用 (据付用型紙と一体)	断 熱 材	1		配線接続口シール用(スリットあり)
型紙固定ねじ	4	M5×16L	型紙取付用	断 熱 材	1		配線接続口シール用(スリットなし)
断 熱 パイ プ	2		配管接続部断熱用	結 束 バ ン ド	4		断熱パイプ固定用
ワ ッ シ ャ ー	8	M10×φ34	ユニット吊り下げ用				

もくじ

安全上のご注意	2
エアコンの据付けについて	3
据付場所の選定	4
1.室内ユニットの据付け	5
2.ドレン配管	6
3.冷媒配管	7
4.電気配線	8
5.応用制御	10
6.試運転	15
7.カスタム機種モニター	16
8.故障診断	17
9.室内ユニット設定確認	19
10.フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い	19






◇お客様への引き渡し

- 「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。

日本国内専用品  
Use only in Japan

# 安全上のご注意

- お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明	図記号の説明
 <b>警告</b> “取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（※1）を負うことが想定される内容”を示します。	 <b>禁止</b> ○は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
 <b>注意</b> “取扱いを誤った場合、使用者が軽傷（※2）を負うことが想定されるか、または物的損害（※3）の発生が想定される内容”を示します。	 <b>指示</b> ●は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
<small>*1:重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。 *2:軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。 *3:物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。</small>	 <b>注意</b> △は、注意を示します。具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

## 警告

- 据付けは販売店、または専門業者に依頼する  
ご自分で据付工事を行い不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 施工前に使用する冷媒種が R32 であることを必ず確認する
- 据付工事は、R32用もしくはR410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行う  
専用の配管部材を使用しなかったり、据付けに不備があると破裂・けがの原因になり、また、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 冷媒充填・回収作業については、第一種フロン類充填回収業者に依頼する  
冷媒充填・回収作業には、専門の知識と技術が必要です。ご自分で作業を行い不備があると冷媒ガスが漏れる原因になります。
- 指定冷媒（R32）以外は使用（冷媒補充・入替え）しない  
室外機の装置銘板あるいはサービスポート近傍に明示している指定冷媒以外を使用した場合、機器の故障や破裂・けがなどの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う  
据付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は適用床面積を守り、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要  
適用床面積・限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。  
万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると着火や酸欠事故の原因となります。
- 同時ツイン接続時、室内ユニットは同一部屋に据え付ける  
室内ユニットを小部屋に据え付けると、適用床面積が守れないことがあります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う  
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風・地震に備え、所定の据付工事を行う  
据付工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う  
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する  
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する  
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する  
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける  
法律によりD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。  
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 据付けや移設時、冷凍サイクル内に指定冷媒（R32）以外の空気などを混入させない  
空気などが混入すると冷媒サイクル内が異常高圧となり、破裂によりけがなどの原因になります。
- 設備工事完了後、フレア接続部を中心に冷媒ガスが漏れていないことを確認する  
漏れた冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける  
冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。



## 警告

- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する  
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。
- フロン類をみだりに大気中に放出しない  
フロン類を大気中に放出することは、法律により禁止されています。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない  
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
- 漏電遮断器（過電流保護機能付き）が正しく取り付けられているか確認する  
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。  
確認方法については、据付けを行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。
- ダクトを設置する場合、ダクトが防火区画を貫通する場合は不燃材のダクトを使用し、防火・防災ダンパーを設ける  
火災の際、延焼のおそれがあります。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材（パテなど）で埋める



## 注意

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける  
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因になることがあります。
- 据付作業のときは手袋（※）を着用する  
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。（※軍手などの厚手の手袋）
- ろう付け作業を行う場合は、冷媒の漏洩や残留がないか確認する  
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- 据付けや移設を行う場合、ガス・石油燃焼器・電気ヒーターなどの火元（着火源）となるものは十分遠ざける  
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないように断熱する  
配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気を発生させる機器近傍に室内ユニットを設置しない  
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。
- エアコンの吹出口は火災報知器より 1.5m 以上離して設置する  
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。



# エアコンの据付けについて

このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC 系冷媒（R32）を採用しています。

- R32 冷媒は圧力が高く、水分・酸化した皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすいので、据付工事のときに水分・ゴミ・他の冷媒や冷凍機油などが冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 据付けには、下記のR32 もしくは R410A 冷媒用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないように施工してください。
- 既設配管を流用する場合は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

## 必要器材および取扱い上の注意点

据付工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。  
これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明    ◎：新規に準備（R32 専用として R410A と使い分けが必要）    △：従来工具を流用可

使用する機器	用 途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	△ R410A（使用可能）
チャージングホース	および運転チェック	△ R410A（使用可能）
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可（冷媒充填ハカリによること）
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	△ R410A（使用可能）
真空ポンプ	真空乾燥	△ R410A（使用可能）
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△ R410A（使用可能）
フレアツール	配管のフレア加工	△ R410A（使用可能）
ベンダー	配管の曲げ加工	△ R410A（使用可能）
冷媒回収機	冷媒の回収	△ R410A（使用可能）
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	△ R410A（使用可能）
パイプカッター	配管の切断	△ R410A（使用可能）
冷媒ボンベ	冷媒充填	◎ R32 専用    識別：冷媒名記載
溶接機・窒素ボンベ	配管の溶接	△ R410A（使用可能）
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△ R410A（使用可能）

## 冷媒配管について

このエアコンの据付けには、R32 もしくは R410A 冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

- 配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ 6.4、φ 9.5、φ 12.7 は 0.8mm、φ 15.9 は 1.0mm のものを使用してください。配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。
  - ※R410A 冷媒用配管キットを使用する場合は、**冷媒種：2 種、対応冷媒名：R410A** と表示されている配管を使用してください。（適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約 1m ごとに記号化して表示してあります。この表示が「②」のものを使用してください。）
  - また、フレア加工・フレアナットも R32・R410A 冷媒用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。
1. 一般の銅管を使用する場合
    - 銅管は JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」の C1220 タイプで、内部の付着油量 40mg／10m 以下、配管肉厚はφ 6.4、φ 9.5、φ 12.7 は 0.8mm、φ 15.9 は 1.0mm のものを使用してください。
    - 上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。
  2. フレアナットおよびフレア加工
    - フレアナットはエアコン本体付属のもの、または R32・R410A 用を使用してください。
    - フレア加工は 7 ページの **冷媒配管の接続** をご覧のうえ、加工してください。

# 据付場所の選定

## 警告

可燃性ガスの漏れのある場所への設置は行わない  
万一ガスが漏れて室内ユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



## 注意

- エアコンの吹出口は火災報知器より 1.5m 以上離して設置する  
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気を発生させる機器  
近傍に室内ユニットを設置しない  
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。



室内ユニットは冷・温風がムラなく循環する場所を選んでください。

次のような場所はさけてください。

- 酸性またはアルカリ性雰囲気のある場所（温泉地帯・化学薬品工場・燃焼器の排気を吸い込む場所・次亜塩素酸ナトリウムを噴霧する場所など）…熱交換器（アルミフィン・銅パイプ）などに腐食を起こすおそれがあります。
- 切削油などの機械油の立ち込める雰囲気のある場所…熱交換器の腐食・熱交換器目づまりによる霧の発生・フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損・断熱材のはがれなどを起こすおそれがあります。
- 食用油煙が発生する場所（食用油を使用する厨房や焼肉・お好み焼き店など）…フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損などを起こすおそれがあります。
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにある場所（気流の乱れにより、能力低下や機器の停止のおそれがあります。）
- 電源に自家発電装置を使用している場所…電源周波数・電圧が変動し、エアコンが正常に動作しないことがあります。
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けしないでください。金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。
- クレーン車・船舶など移動するもの
- 特殊用途（食品・動植物・精密機器・美術品の保存など）では使用しないこと。（保存物の品質などに損害のおそれがあります。）

- 高周波の発生する機器（インバーター機器・自家発電機・医療機器・通信機器）がある場所（エアコンの誤動作や制御の異常や、それら機器へのノイズによる弊害が生じるおそれがあります。）
  - 据え付けた下に、ぬれては困るものがある場所（湿度 80% 以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じるおそれがあります。）
  - ワイヤレスタイプの場合、インバータータイプの蛍光灯がある部屋、また直射日光が当たる場所（ワイヤレスリモコンの信号を受け付けられないことがあります。）
  - 有機溶剤を使用している場所
  - 液化炭酸冷却など化学プラントには使用できません。
  - ドアまたは窓の近くで高湿度の外気と接するおそれのある場所（結露するおそれがあります。）
  - 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
- 建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準（省令第59条、基準の解釈第167条3項）に従ってください。

配管を壁に貫通させるときは、必ず下記の部品を使用してください。

- 幹旋先：東芝コンシューママーケティング（株）
- (1) 部品名：ウォールキャップ  
型 名：UWC-60（能力ランク：P63以下）  
WG-75N（能力ランク：P71以上）
- (2) 部品名：貫通スリーブ  
型 名：NFP-60（能力ランク：P63以下）  
NFP-75（能力ランク：P71以上）

室内ユニット下面から床まで1.8m以上離してください。

## お願い

天井内の温度が 30℃、相対湿度が 80% 以上になる下表のような場所に設置すると、室内ユニット本体の外表面に結露し滴下することがありますので、室内ユニット本体の側面（四面）と天面に断熱材を貼り付けてください。

- バチンコ店・調理場などのように室内発熱量の多い場所
- 天井内を外気取入通路に使用している場所
- スレートぶきの天井内・瓦ぶき屋根の天井内

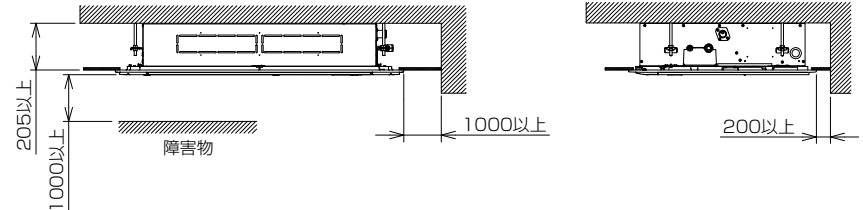
追加断熱材形状（断熱材は、厚さ 10mm 以上のものを使用してください。）

貼付面	サイズ (mm)	数量	備 考
天面用	1000×710	1	—
前面・背面用	1000×210	2	—
左側面用	730×210	1	吊り金具の逃げが必要です。
右側面用	730×210	1	配管と吊り金具の逃げが必要です。

## 据付けスペース

室内ユニットの据付けおよびサービスに必要なスペースを確保してください。

(単位：mm)



## 天井高さ

据付け可能天井高さは4.2m以内です。4.2mを超えると風速分布が悪くなります。

天井高さが下表の標準（出荷時）を超える場合は、温風が床面まで届きにくくなるので、高天井の設定が必要になります。

高天井設定の方法は、10ページの「高天井切換」（ワイヤレスリモコン使用時は、12ページの

ワイヤレスリモコン使用の場合）をご覧ください。

据付け可能天井高さ一覧表 (単位：m)

能力ランク	P40～P56形	P63～P80形	設定データ
標準（出荷時）	3.5	3.8	0
高天井①	4.0	4.0	1
高天井②	4.2	4.2	3

据付状況に応じて、リモコンのフィルターサイン（フィルター清掃のお知らせ）が点灯するまで時間を変更できます。

また、据付場所や部屋の構造などでどうしても暖まりにくい場合には、暖房の内部設定温度を上げることができます。

設定方法は、11ページの「フィルターサイン」「暖房シフト」をご覧ください。

## リモコン受信距離

(ワイヤレスリモコン使用時)

リモコンを操作する位置と据付場所を決めてください。

(ワイヤレスタイプの受信距離は約7mです。この距離は目安です。乾電池の容量などにより、若干前後します。)

- 誤作動、リモコン受信不良防止のため、蛍光灯、赤外線を発生させる機器（電子黒板など）や直射日光の障害を受けない場所を選定してください。

- リモコン送信部および受信部の設定を切り換えることで、同じ部屋に設定の2台の室内ユニットを個々に操作できます。

# 1 室内ユニットの据付け

## ⚠ 警告

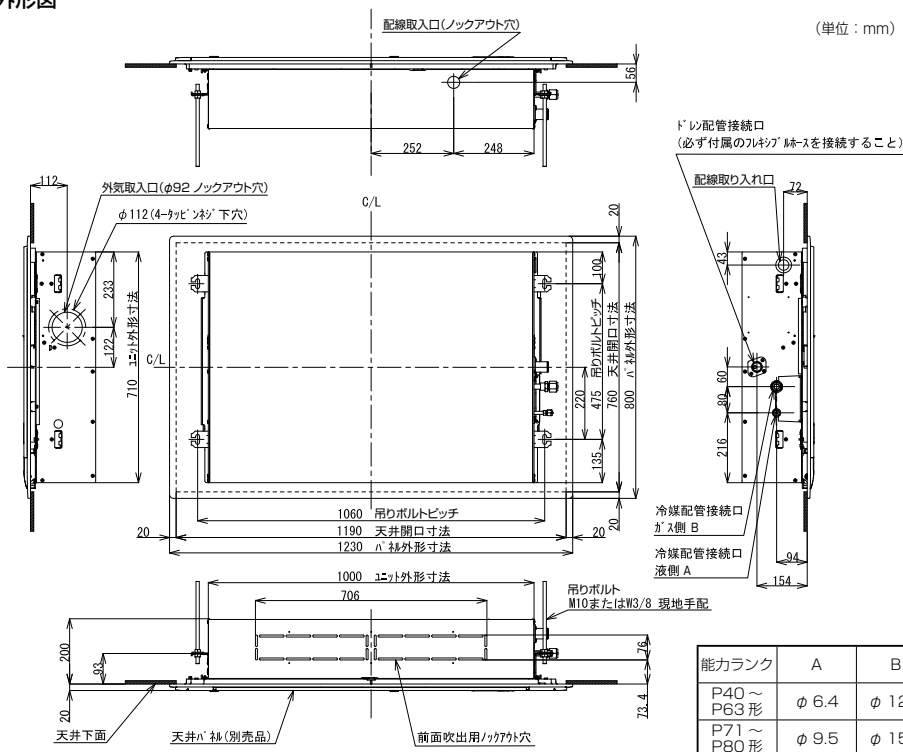
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う  
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風・地震に備え、所定の据付工事を行う  
据付工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は適用床面積を守り、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要  
適用床面積・限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。  
万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると着火や酸欠事故の原因となります。
- 同時ツイン接続時、室内ユニットは同一部屋に据え付ける  
室内ユニットを小部屋に据え付けると、適用床面積が守れないことがあります。



## お願い

- 室内ユニットの損傷防止およびけがが防止のため、次のことは必ず守って取り扱ってください。
- 梱包された状態でも室内ユニットの上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
  - 室内ユニットは、なるべく梱包したままで搬入してください。  
やむをえず、開梱して搬入する場合は、当て布などで傷を付けないようにしてください。
  - 運搬は2人以上で行い、包装用バンドを持ての荷扱いはしないでください。
  - 室内ユニットを移動させるときは、吊り金具（4ヵ所）を持ち、その他（冷媒配管・ドレン皿・発泡部品・樹脂部品）に力を加えないでください。
  - 吊りボルトに防振材を入れる場合は、本体の振動が大きくなることを確認のうえで使用ください。

## ●外形図



## 天井開口と吊りボルトの設置

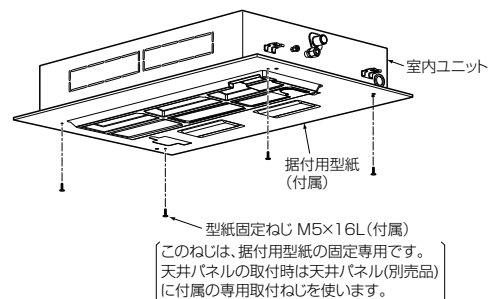
- 室内ユニットは、吊り下げたあとの配管・配線工事を考慮して、据付位置と方向を決定してください。
- 室内ユニット据付位置決定後、天井の開口と吊りボルトの設置を行ってください。
- 天井開口寸法と吊りボルトピッチは、外形図および付属の据付用型紙に記載されています。
- 天井が既設の場合は、室内ユニットを吊り下げる前に配管・配線を接続する位置まで、ドレン配管・冷媒配管・室内外接続線・リモコン線を引いておいてください。

室内ユニット据付用の吊りボルトとナットは現地手配してください。

吊りボルト	M10またはW3/8	4本
ナット	M10またはW3/8	12本

## 付属の据付用型紙の使いかた

- <既設天井の場合>  
天井開口穴と吊りボルトの位置出しにご使用ください。
- <新設天井の場合>  
新設天井を張るときは開口穴の位置出しにご使用ください。
- 吊りボルト設置後、室内ユニットを取り付けてください。
  - 室内ユニット吊り金具の天井パネル取付部に据付用型紙をねじ止めします。(付属の型紙固定ねじM5×16L:4本)
  - 天井を張るとき、据付用型紙の外寸に沿って開口してください。



## 天井の処理

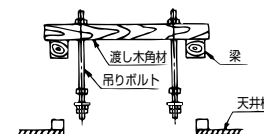
- 建築の構造により異なるので、詳しくは建築・内装業者とご相談ください。
- 天井板の取りはずし後の処理は、天井板の振動を防ぐための天井下地(骨組)の補強と、既設天井の水平度を正しく保つことが重要です。
- 天井下地を切断撤去してください。
  - 天井下地切断面を補強し、天井板の端固定用の天井下地を追加してください。

## 吊りボルトの取付け

吊りボルト（4本、現地手配）はM10またはW3/8を使用します。ピッチはユニット外形図の寸法に従い、既設構造に合わせて次の方法で取り付けてください。

## 木造の場合

梁の上に角材を渡して吊りボルトを設置します。



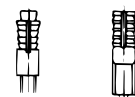
## 新設のコンクリートスラブの場合

インサート金具・埋込ボルトなどで設置します。



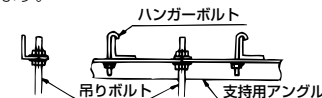
## 既設のコンクリートスラブの場合

ホールインアンカー・ホールインプラグ、またはホールインボルトを使用します。



## 鉄骨構造の場合

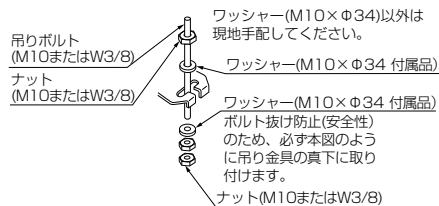
アングルをそのまま利用するか、新規に支持用アングルを設置します。



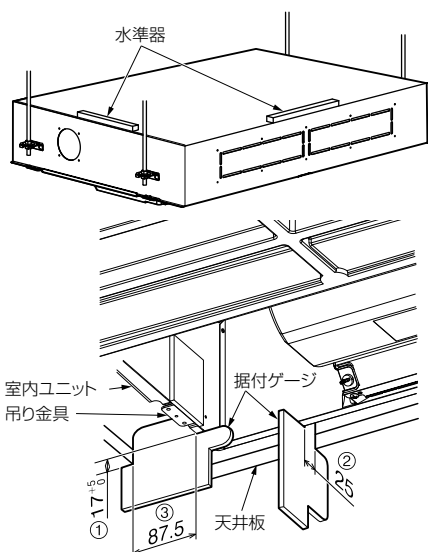
# 1 室内ユニットの据付け (つづき)

## 室内ユニットの設置

- 吊りボルトに、ナット (M10 または W3/8: 現地手配) と付属のワッシャー (M10 × φ34) を付けてください。
- 室内ユニットの吊り金具の T 溝にワッシャーを上下に挟み、吊り下げます。

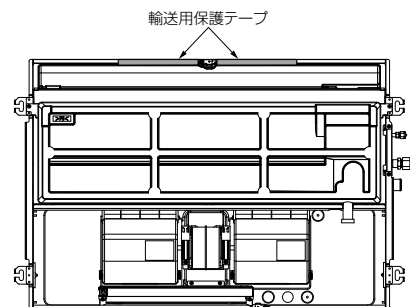


- 四辺が水平になっている水準器にて確認してください。
- 据付用型紙から付属の据付ゲージを切り離してください。
- 据付ゲージを使用して、室内ユニットと天井開口穴の位置関係および吊り下げ高さを確認し、調整します。  
(据付ゲージに使用方向が印刷されています。)
- ①室内ユニット下面が天井板下面から 17 ~ 22mm 高い位置にあることを確認してください。(四隅)
- ②室内ユニット前面および背面 (短手方向) と天井板の隙間 25mm を確認してください。
- ③室内ユニット側面 (長手方向) と天井板の隙間 87.5mm を確認してください。
- ※室内ユニット側面 (長手方向) は場所により寸法が異なりますので据付ゲージによる確認は必ず吊り金具の外側で実施してください。



## お願い

室内ユニットを据え付ける前に、輸送用保護テープをはすしてください。テープをはすさないで運転すると異音が発生する場合があります。



## 天井パネル(別売品)の取付け

天井パネルは配管・配線工事が終了してから取り付けます。天井パネルの取付けはパネルに付属の取付説明書に従ってください。

室内ユニットと天井開口部の取付寸法が正しいか確認してから取り付けます。

## お願い

天井パネルと天井面、および天井パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れが生じて、結露・水漏れの原因になります。

天井パネルを取り付ける前に、天井パネルのアジャストキャップ (左右) をはすしてから室内ユニットに取り付けてください。

## リモコン(別売品)の取付け

- リモコンの取付方法は、リモコンに付属の取付説明書に従ってください。
- 直射日光の当たる所やストーブなどの近くに置いたり設置しないでください。
  - リモコンを操作して室内ユニットが確実に受信することを確認してから取り付けてください。  
(ワイレスタイプ)
  - テレビやステレオなどの機器から 1m 以上離してください。(映像の乱れや雑音が入ることがあります。)  
(ワイレスタイプ)

# 2 ドレン配管

## 警告

防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材 (パテなど) で埋める



## 注意

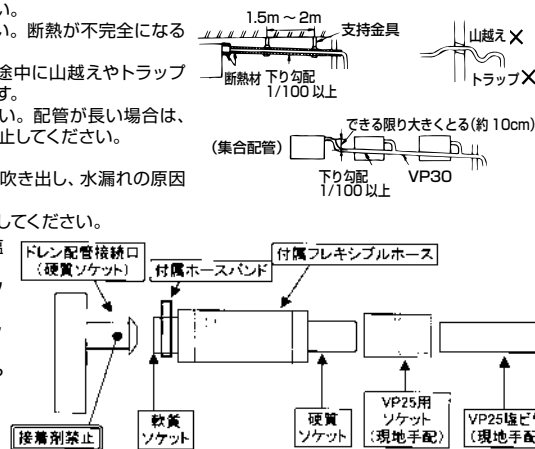
ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するように施工し、結露が生じないよう断熱する

配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。



## お願い

- 室内のドレン配管の断熱を確実に行ってください。
- 室内ユニットとの接続部も必ず断熱してください。断熱が不完全になると結露の原因になります。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中に山越えやトラップを作らないでください。異常音の原因になります。
- ドレン配管の横引きは 20 m 以下にしてください。配管が長い場合は、1.5 ~ 2m 間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施工してください。
- エア抜き管は付けしないでください。ドレン水が吹き出し、水漏れの原因となります。
- ドレン配管との接続部に力を加えないよう注意してください。
- 室内ユニットのドレン配管接続口に直接硬質塩ビ管を接続することはできません。ドレン配管接続口との接続には、必ず付属のフレキシブルホースを取り付けます。
- 室内ユニットのドレン配管接続口 (硬質ソケット) には、接着剤の使用はできません。接着剤を使用するとドレン配管接続口の破損や水漏れの原因になります。必ず付属のホースバンドで固定してください。



## 配管材料・断熱材およびサイズ

配管工事および断熱処理には下表の材料を現地手配してください。

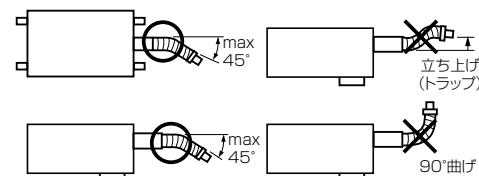
配管材料	硬質塩ビ管ソケット VP25 用
	硬質塩ビ管 VP25 (外径φ32mm)
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ 10mm 以上

## フレキシブルホースの接続

- 付属のフレキシブルホースの軟質側ソケットを室内ユニットのドレン配管接続口に突き当たるまで挿入します。
- 付属のホースバンドを配管接続口の端に合わせ、しっかり締めてください。

## お願い

- 軟質側ソケットは付属のホースバンドで必ず固定し、締め位置を上側にしてください。
- 付属のフレキシブルホースは、折れ・詰まりが起こらないよう角度は 45° 以下とし、使用してください。



## ドレン配管の接続

- 取り付けた付属のフレキシブルホースの硬質側ソケットに、硬質ソケット (現地手配) を接続します。
- 接続した硬質ソケットにドレン配管 (現地手配) を接続していきます。

## お願い

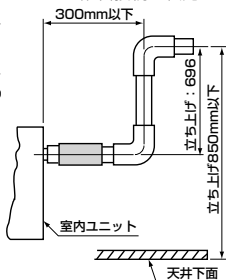
- 硬質塩ビ管の接続には、塩ビ用接着剤を使用し、水漏れのないよう確実に行ってください。
- 接着剤の乾燥硬化 (接着剤の取扱説明書をご確認ください。) するまでに時間を要しますので、その間ドレン配管との接続部に力が加わらないようにしてください。

## 2 ドレン配管 (つづき)

### ドレンアップ

ドレン配管に下り勾配が確保できないときは、ドレンアップができます。

- ドレンの配管の高さは、天井下面から850mm以下にしてください。
- ドレン配管は、室内ユニットのドレン配管接続口根元より300mm以下で取り出し、垂直に立ち上げてください。
- 垂直に立ち上げたあとは、すぐに下り勾配になるよう配管してください。



### 排水の確認

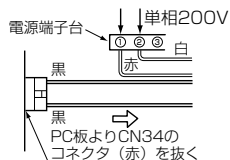
ドレン配管工事の完了後に、排水が行われることと配管接続部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモーター音に異常がないことも確認してください。暖房期に据付けの場合も必ず実施してください。

#### 電気配線工事が完了している場合

- パネルを取り付ける前に右図の方法で注水してから、冷房運転しながらドレン配管接続口(透明)から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。

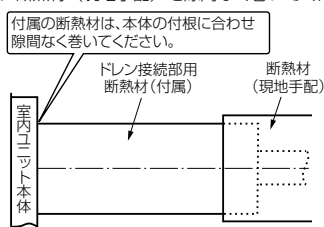
#### 電気配線工事が完了していない場合

- 電気部品箱のPC板のコネクタ(CN34: 赤)からフロートスイッチコネクタ(3P: 赤)を抜いてください。(このとき電源が切れていることを必ず確認してください。)
- 電源端子台の①・②に単相 200Vを接続します。(端子台の③には絶対に200Vを印加しないでください。PC板の故障の原因となります。)
- 右図の方法にて注水してください。(注水量 1500cc～2000cc)
- 電源を入れると、自動的にドレンポンプが運転しますので、ドレン配管接続口(透明)から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。
- 排水・水漏れ確認後、電源を切りフロートスイッチコネクタをPC板の元の箇所(CN34)に付け、電気部品箱を元に戻します。



### 断熱処理

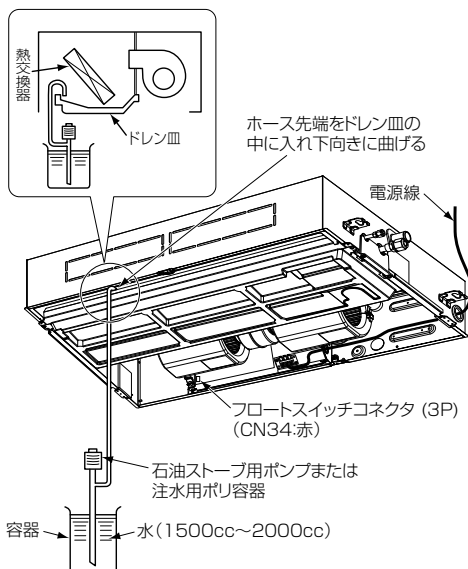
- 排水確認後、付属のドレン接続部用断熱材を室内ユニットのドレン配管接続口付根よりフレキシブルホースを被うように隙間なく巻いてください。
- 付属のドレン接続部用断熱材に重ねるようにして、ドレン配管に断熱材(現地手配)を隙間なく巻いてください。



※断熱材のスリット部および合わせ目は天井面を向くようにしてください。

### 注意

水を注入するときはゆっくりと注入する  
勢いよく注入すると、室内ユニットの内部に  
散布され機器の故障の原因となります。



## 3 冷媒配管

### 警告

- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う  
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する  
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 施工前に使用する冷媒種が R32 であることを必ず確認する
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材(パテなど)で埋める

### お願い

冷媒配管が長い場合は、2.5～3m 間隔で支持金具を設け固定してください。配管を固定しないと異常音が発生する場合があります。フレアナットは必ず室内ユニット付属のもの、または R32 もしくは R410A 用のものを使用してください。

### 配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳しくは室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

### 配管材料およびサイズ

能力ランク	配管サイズ (mm)		配管材料
P40 形～P63 形	ガス側	φ 12.7 (O 材、最小肉厚 0.8)	空調用リン脱酸銅継目無管 (C1220T)
	液 側	φ 6.4 (O 材、最小肉厚 0.8)	
P71 形～P80 形	ガス側	φ 15.9 (O 材、最小肉厚 1.0)	
	液 側	φ 9.5 (O 材、最小肉厚 0.8)	

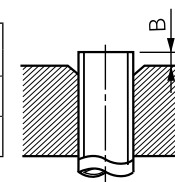
### 冷媒配管の接続

#### ●フレア加工

- ①パイプカッターで配管を切断します。  
バリは必ず取ってください。(ガス漏れの原因となります。)
- ②フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。  
フレアナットは室内ユニット付属のもの、または R32 もしくは R410A 用のものをご使用ください。  
R32 用もしくは R410A 用のフレアツールをおすすめしますが、R22 用のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

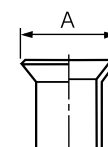
#### ●フレア加工時の銅管出し代：B (単位：mm)

配管外径	リジッド(クラッチ式)の場合		インベリアル(ウイングナット)の場合
	R32もしくはR410A用ツール使用時	R22用ツール使用時	
6.4	0～0.5	1.0～1.5	1.5～2.0
9.5			2.0～2.5
12.7			
15.9			



#### ●フレア部加工寸法：A (単位：mm)

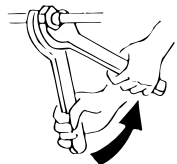
配管外径	A $+0_{-0.4}$
6.4	9.1
9.5	13.2
12.7	16.6
15.9	19.7



フレア加工後、加工部に傷・切粉付着・変形・段差・扁平などがないことを確認してください。

# 3 冷媒配管 (つづき)

- 封入ガスは大気圧しか封入されていないので、フレアナットをはずしても「プシュー」という音がしませんが異常ではありません。
- 室内ユニットの配管接続は必ずダブルスパナで行ってください。



ダブルスパナ作業

- フレアナット締付トルクは下表に従ってください。

配管外径(mm)	締付トルク (N・m)
6.4	14 ~ 18
9.5	34 ~ 42
12.7	49 ~ 61
15.9	68 ~ 82

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

- フレア配管接続部の締付トルク

R32は圧力が高いため、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備があるとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

## お願い

トルクをかけ過ぎると、据付条件によってはナットが割れる場合があります。

## エアパージ

真空ポンプを使用して、室外機のパルプのチャージポートから真空引きを行います。

詳しくは室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

- 室外機に封入された冷媒を使ったエアパージは絶対にしないでください。

## お願い

チャージホースなどのツールは、R32 もしくは R410A 専用のものを使用してください。

## 冷媒追加

冷媒の追加は室外機に付属の据付説明書に従い、R32冷媒を追加してください。

必ずハカリを使用して定量封入し、追加量は規定量を必ず守ってください。

## お願い

- 冷媒の過剰封入や過少封入は、圧縮機の故障を引き起こす原因になります。必ず規定量を守ってください。
- 作業実施者は室外機のサービスパネルに貼り付けてある銘板に配管長さと追加冷媒量を必ず記入してください。圧縮機および冷凍サイクル故障時の原因究明に必要です。

## バルブを全開に

室外機のパルプを全開にします。弁棒の操作には六角レンチが必要です。

## ガスリークチェック

リークディテクタや石けん水で配管接続部やバルブのキャップ部からガス漏れがないか確認します。

## お願い

リークディテクタは、HFC 冷媒 (R32・R410A・R134a など) 専用のものを使用してください。

## 断熱処理

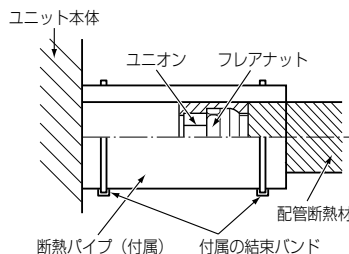
配管の断熱は液側とガス側の両方を別々に行います。

- ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度120℃以上のものを使用してください。

- 室内ユニットの配管接続部の断熱は、付属の断熱材を用いて隙間なく確実に断熱処理してください。

## お願い

断熱処理は室内ユニットの配管接続部付根まで露出がないよう確実に行ってください。(配管が露出していると、水漏れの原因となります。)  
断熱材を巻くときはスリット部が天井面を向くように処理してください。



# 4 電気配線

## 警告

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する  
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける  
法律により D 種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。  
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 電気工事 (アース工事を含む) は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する  
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 漏電遮断器 (過電流保護機能付き) が正しく取り付けられているか確認する  
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。  
確認方法については、据付けを行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。



## お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従って行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って配線してください。
- 制御配線用端子台 (リモコン線接続部など) には 200V 電源を絶対に接続しないでください。(故障します。)
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。

## 電源仕様


配線およびリモコン線は現地手配となります。

電源仕様は下表に従ってください。容量が小さいと過熱・焼損などの発生原因となり危険です。  
室外機の電源容量および電源線の仕様は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

能力ランク	電源 (50/60Hz)	アース線	室内外接続線	室内電源渡り線 (同時ツイン・トリプル接続時)
P40~P80形	三相 200V 単相 200V	φ 1.6mm	φ 1.6mm×3本	φ 1.6mm×2本

※記載の配線サイズは、最小サイズです。

リモコン配線とリモコン渡り配線 ※ご使用のリモコンによって異なります。

<div>リモコン線（通信線）とAC100V/200Vの配線と直接接触させたり、同一電線管に収めることができません。ノイズなどにより制御系統に異常が生じるおそれがあります。</div>	RBC-AMSU**		
			
線種	VCTF:0.5mm²～2.0mm²×2		
リモコン配線とリモコン渡り配線の総配線長 (L+L1+L2+…Ln)	1リモコン	2リモコン	ワイヤレスとの2リモコン
	500mまで	300mまで	400mまで
リモコン渡り配線の総配線長 (L1+L2+…Ln)	200mまで		

リモコン線 (通信線) と AC100V/200V の配線と直接接触させたり、同一電線管に収めることができません。ノイズなどにより制御系統に異常が生じるおそれがあります。



# 4 電気配線 (つづき)

## 通信方式とモデル形名

TCC-LINK.u 対応機種は TCC-LINK 機種と組み合わせて使うことができます。  
モデルと通信方式の詳細は下表を参照してください。

通信方式	TCC-LINK.u 対応機種	TCC-LINK 機種
室内ユニット	AI*-GP***	左記以外 (AI*-RP***, AI*-AP*** など)
ワイヤードリモコン	RBC-AMSU**	左記以外
ワイヤレスリモコン 受信部	RBC-AXRU** TCB-AXRU**	左記以外

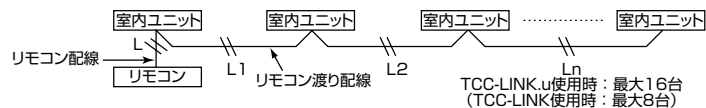
室内ユニットに接続するすべてのリモートコントローラー・リモートセンサーが TCC-LINK.u に対応している場合は、自動的に TCC-LINK.u の通信方式になります。  
TCC-LINK.u に対応していないリモートコントローラー・リモートセンサーが 1 台でも含まれていると、従来の TCC-LINK による通信となります。

## ⚠ 注意

以下の場合、ワイヤードリモコンを使用して手動で TCC-LINK.u から TCC-LINK に変更してください。  
TCC-LINK.u のままでは正しく動作しません。

(設定方法は **詳細データ設定を使用した設定切替** を参照してください。)

- ・TCC-LINK.u に対応していない室内ユニットとグループ接続をする場合
- ・TCC-LINK.u に対応していない集中管理機器と接続する場合

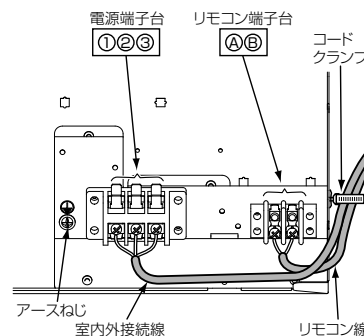
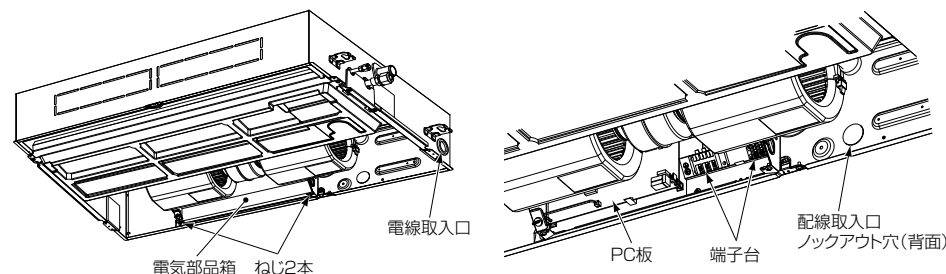


## 配線接続

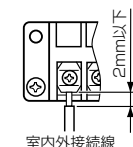
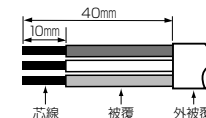
### お願い

- 室内外接続線は、必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行わないと故障の原因となります。
- 配線は、室内ユニットの配線取入口を必ず通してください。
- 電気部品箱をサービスなどで吊り下げる場合がありますので、配線には余裕 (約 100mm) を持たせてください。

- 電気部品箱のカバー取付けねじ (2本) をゆるめてカバーをはずします。
- 室内外接続線は、外被覆が電気部品箱に収まるように皮ムキを行ってください。
- 配線取入口についているブッシングの膜にスリットを入れて配線を通します。  
※背面から配線を取り入れる場合はノックアウト穴を開け、側面のブッシングを付け替えてください。  
ブッシングをはずして開いた穴は、付属の断熱材 (スリットなし) を内側から貼り付けてください。
- 電気部品箱の端子台に室内外接続線とリモコン線を接続します。
- 端子台のねじはしっかりと締め、電気部品箱に付いているコードクランプで配線を固定してください。  
(端子台の接続部にテンションを掛けないようにしてください。)
- 配線を挟まないようにし電気部品箱のカバーを取り付けます。
- 付属の断熱材 (スリットあり) で配線取入口をシールしてください。

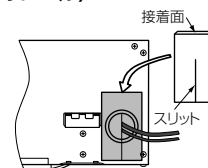


### <室内外接続線の皮ムキ長さ>



端子台に接続する配線は、左図の寸法を確保してください。

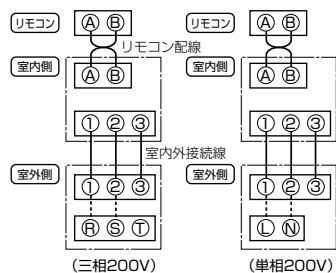
### <配線取入口のシール>



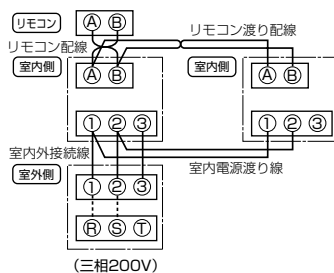
# 4 電気配線 (つづき)

## ●配線図

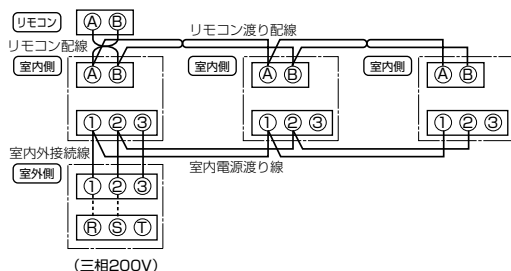
〈シングルシステム〉



〈同時ツインシステム〉



〈同時トリプルシステム〉

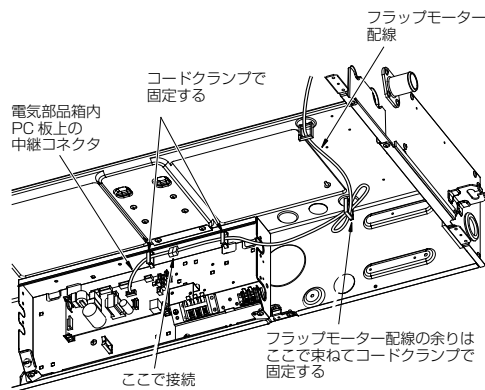


### お願い

同時ツイン・トリプル接続のときは、室内外接続線および室内電源渡り線の末端を加工し、圧着端子を取り付けてください。

## 天井パネルの配線

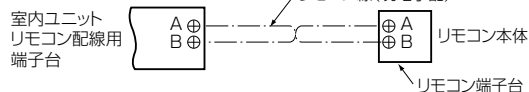
天井パネルから出ているフラップモーター配線のコネクタをPC板上の中継コネクタ:白(5P)に接続し、右図のように電気部品箱内と側面のコードクランプで固定してください。



## リモコンの配線

取付け時には、リモコンの据付説明書もご覧ください。

### ●配線図

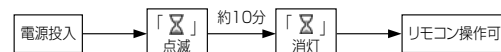


※配線は断面積 0.5mm<sup>2</sup> ~ 2mm<sup>2</sup> のものを使用します。

# 5 応用制御

はじめてお使いのときは、電源が入ったあとリモコンが操作を受け付けるまで時間がかかりますが、故障ではありません。

〈据付け後初回電源投入時〉リモコン操作ができるまで約10分かかります。



〈2回目以降電源投入時〉リモコン操作ができるまで約3分かかります。



出荷時は、すべて[標準(出荷時)]に設定されていますので、必要に応じて室内ユニットの設定を変更してください。

設定変更は、省エネneoリモコン・ワイヤードリモコンの操作によって行います。

\*ワイヤレスリモコン・簡単リモコン・リモコンレスシステム(集中管理リモコンのみの場合)での設定変更はできません。

## 簡単機能設定を使用した設定切換

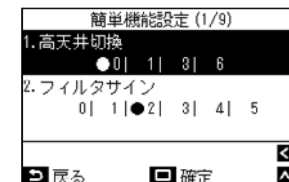
室内ユニット停止中にエアコンの各種データ設定ができます。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

1 「メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」画面で「」「」「」を押して「簡単機能設定」を選んで「 設定/決定」を押す

3 「」「」を押して項目を選ぶ  
→「」「」を押して希望の設定に切換え、または数値の設定を行います。

4 各項目の設定後「 設定/決定」を押す  
→ 変更が確定され、「現地設定メニュー」画面に戻ります。  
→ データ変更中は「」が表示されます。  
グループ接続を行っている場合:  
→ 各ユニットの「簡単機能設定」終了後「 設定/決定」を押すと変更が確定され、ユニット選択画面が表示されます。ユニット選択画面で「 戻る」を押すと「」がしばらく表示されたあと、「現地設定メニュー」画面に戻ります。



### 高天井切換

高天井据付け時の風量切換の設定を行います。

設定	0	1	3	6
高天井	--	高天井①	高天井③	--

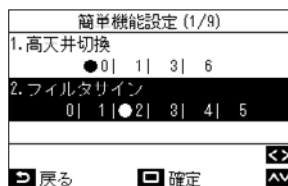
高天井設定は、4 ページ「据付け可能天井高さ一覧表」より選択してください。

# 5 応用制御 (つづき)

## フィルターサイン

据付状況に応じてフィルターサインが点灯するまでの時間を変更することができます。

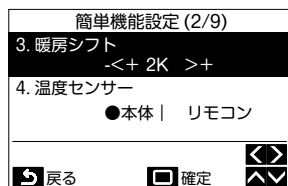
設定	0	1	2	3	4
フィルターサイン 点灯時間	なし	150H	2500H (出荷時)	5000H	10000H



## 暖房シフト

暖房効果をよりよくするために暖房の内部設定温度を上げることができます。

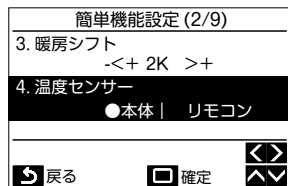
- 「」と「」でシフトする温度を設定できます。  
(出荷時の設定は「+2K」ですが「+0K(シフトなし)」から「+6K」まで設定できます。)
- シフト温度を設定し確定するには「 設定 / 決定」を押します。  
変更が確定されて「現地設定メニュー」画面に戻ります。  
(「 戻る」を押したときは、変更は行われず、変更前の状態で「現地設定メニュー」画面に戻ります。)



## 温度センサー

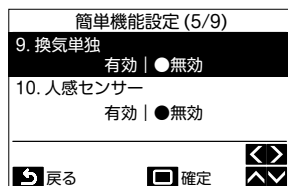
通常は室内ユニットの温度センサーが室温を感知しますが、リモコン周辺の温度を感知させたいときに設定します。(出荷時の設定は「本体」です。)

温度センサーでリモコンを選択すると、詳細表示画面に「」が表示されます。ただし、子リモコンに設定されている場合は表示されません。



## 換気単独

換気扇を単独で運転するときに「有効」に設定します。  
(出荷時の設定は「無効」です。)



## 詳細データ設定を使用した設定切替

室内ユニット停止中にエアコンの各種詳細データ設定を行うことができます。  
(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「詳細データ設定」を選んで「 設定 / 決定」を押す  
→「サービス用です。設定変更が必要ですか?」と表示されるので、変更を行う場合は「 設定 / 決定」を押してください。

3 「室内機」を「」「」を押して選んで「 設定 / 決定」を押す  
→室内ユニットのファンとフラップが動作します。

グループ接続を行っている場合:  
→ 選択している室内ユニットのファンとフラップが動作します。

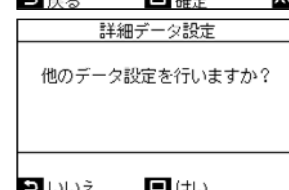
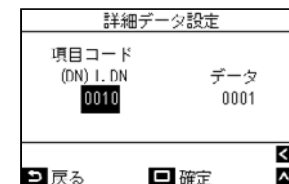
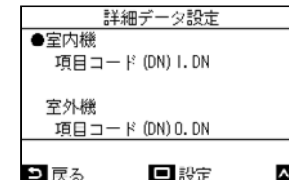
4 「」を押して項目コード(DN)を黒いハイライト表示にさせ、「」「」を押して項目コードの設定を行う

5 「」を押してデータを黒いハイライト表示にさせ、「」「」を押してデータの設定を行う

6 項目コード(DN)のデータ設定終了後「 設定 / 決定」を押す  
→「他のデータ設定を行いますか?」と表示されます。

7 他の項目コード(DN)のデータ設定を行う場合は「 設定 / 決定」を押す  
他の設定を行わない場合は「 戻る」を押す  
→ 変更が確定され、「現地設定メニュー」画面に戻ります。  
→ データ変更中は「」が表示されます。

グループ接続を行っている場合:  
→ 「 戻る」を押すとユニット選択画面が表示されます。ユニット選択画面で「 戻る」を押すと「」がしばらく表示されたあと、「現地設定メニュー」画面に戻ります。



項目	内容	項目コード (DN)	設定データ		
通信方式	TCC-LINK.u に対応していない室内ユニットとグループ接続をする場合、または TCC-LINK.u に対応していない集中管理機器と接続する場合は「0000」に設定します。	FC	設定	0000	0004
			通信方式	TCC-LINK	TCC-LINK.u (出荷時)

# 5 応用制御 (つづき)

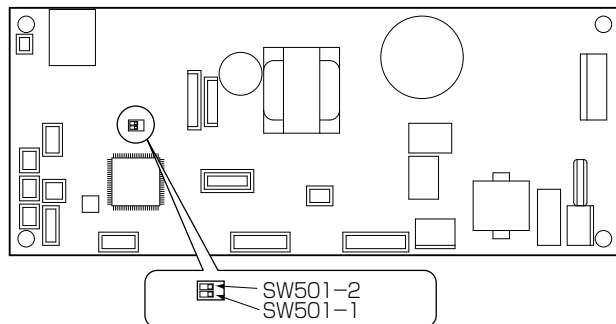
12

## ワイヤレスリモコン使用の場合

高天井の設定は、下表に示すように室内マイコン基板上のスイッチによる切替方法があります。

※ただし、一度切り換えると、0001、0003 の設定は自由にできますが、0000 に戻すには、スイッチを標準（出荷時）位置にして、別売ワイヤードリモコンから設定データ 0000 へのデータ書換作業が必要となりますのでご注意ください。

※マイコン基板上のスイッチを操作するときは、必ず電源を OFF にしてから作業してください。



SW501-1	OFF	ON	OFF	ON
SW501-2	OFF	OFF	ON	ON
設定データ	0000	0001	0003	0006
高天井	—	高天井①	高天井③	—

### 出荷時の設定に戻すには

SW501-1、SW501-2 とも OFF にしたあと、別売のワイヤードリモコンを接続し、10 ページの「高天井切替」で設定データを「0」にすることにより、出荷時の設定に戻ります。

## 別売部品を取り付ける場合

別売部品を取り付けるときに、ワイヤードリモコンによるデータ設定が必要な場合があります。必ず別売部品の取付説明書に従って、設定を行ってください。

## その他

本機種は、以下の機能が使用できます。


詳細は室内ユニットのサービスガイドをご覧ください。

- ・ローテーション・バックアップ運転
- ・フリークーリング
- ・セカンダリーヒーティング
- ・パワー連携

## グループ制御

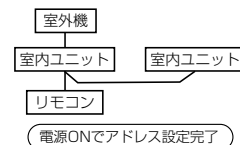
### 同時ツイン・トリプルの場合

同時ツインシステムでは 2 台の室内ユニット、同時トリプルシステムでは 3 台の室内ユニットを同時に ON/OFF 運転できます。

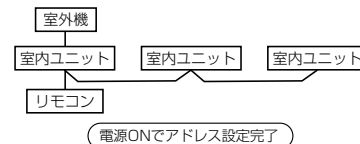
- 配線手順および配線は、「4. 電気配線」に従って行ってください。
- 電源投入時に自動アドレス設定に入り、約 3 分後にアドレス設定中を示す「」の表示が、表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス終了までの所要時間は約 5 分です。

〈同時ツインシステム〉




〈同時トリプルシステム〉



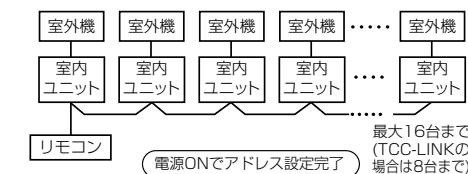
### 複数台システムのグループ制御の場合

リモコン 1 個で最大 16 台 (TCC-LINK の場合は 8 台) までグループ制御できます。

- 個々の系統（同一冷媒系統）システムの配線手順および配線は、「4. 電気配線」に従って行ってください。
- 系統間の配線は次の手順で行います。  
リモコンを接続した室内ユニットのリモコン端子台 (A・B) から他の室内ユニットのリモコン端子台 (A・B) に、リモコン渡り配線をそれぞれに渡らせて接続します。
- 電源投入時に自動アドレス設定に入り、約 3 分後にアドレス設定中を示す「」の表示が表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス終了までの所要時間は約 5 分です。

〈シングルシステムのグループ制御〉



### 注意

グループ制御のシステム構成によっては、自動アドレス設定後に手動によるアドレス変更を行う必要があります。





- アドレス変更が必要なシステム構成は、複数台の同時ツイン・トリプルシステムが 1 つのリモコンでグループ制御されている複合システムの場合です。

## 応用制御 (つづき)

## 手動アドレス設定の操作手順

室内ユニットのアドレスは、電源投入時に自動で設定されますが、複合システムでは手動操作でアドレス変更が必要な場合があります。室内ユニットの系統アドレス・室内アドレス・グループアドレスをリモコン上に表示し、該当する室内ユニットのファン・フラップを動作させてアドレスと室内ユニットの関係を確認し、必要場合は手動でアドレスの変更をしてください。室内ユニット停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

## アドレス確認・設定


- 1 「メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする
- 2 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「室内機アドレス確認・手動設定」を選んで「設定/決定」を押す  
→ 最初にグループ全体の室内ユニットのファンとフラップが動作します。



アドレスは「-」が表示されます。

- ### 3 『メニュー』を押す
- 『メニュー』を押すごとに、グループ全体→親機→子機1…の順に表示されます。
- 該当する室内ユニットのファンとフラップが動作します。

- 4** 手動で変更するユニットを選んで『 設定/決定』を押す  
→ 設定画面が表示されます。

- 5** 「」「」を押して黒くハイライトされた表示を移動させ、「」「」を押してアドレスを設定する

- 6** すべての室内ユニットの手動アドレス設定後『 設定/ 決定』を押す  
→ 画面に「アドレスの変更を行います。よろしいですか?」と表示されます。

- 7** **「 設定/ 決定」を押す**
- 変更が確定され、「アドレス設定」画面に戻ります。
  - データ変更中は「」が表示されます。

アドレス設定

1. 室内機アドレス確認・手動設定
2. 集中制御用アドレス確認・設定
3. アドレス初期化

戻る 設定

室内機アドレス確認・手動設定

現在のアドレス

系統	1	室内	1	Gr	0
----	---	----	---	----	---

☐ ユニット
 ☐ 戻る
 ☐ 設定

室内機アドレス確認・手動設定				
現在のアドレス				
系統	1	室内	1	Gr 0
設定するアドレス				
系統	1	室内	2	Gr 0
<div> <div>三 ユニット</div> <div>AV 1</div> <div>戻る</div> <div>確定</div> <div>&lt;&gt;</div> </div>				

アドレスの変更を行います。  
よろしいですか？




☒ いいえ ☐ はい

## グループ接続する場合のお願い

- ・4 方向吹出しタイプ（コンパクト含む）とそれ以外の室内ユニット（全熱交換ユニット含む）でグループ接続を行う場合は4 方向吹出しタイプ室内ユニットを親機に設定してください。
- ・オートグリル付室内ユニットとそれ以外の室内ユニットでグループ接続を行う場合はオートグリル付室内ユニットを親機に設定してください。

## 集中制御用アドレス確認・設定




室内ユニットを集中管理機器に接続する場合は集中制御用のアドレス設定が必要です。室内ユニット停止中に設定を行います。  
(エアコンは必ず運転を停止させてください。)


- 1** 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする



- 2** 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「集中制御用アドレス確認・設定」を選んで「☐ 設定/決定」を押す  
→ 室内ユニットの現在のアドレスが表示されます。

**お知らせ**

工場出荷時設定は「Un」に設定されています。

- 3** 「 設定/ 決定」を押し、「」「」を押しして設定する

- 4** 「 設定/ 決定」を押す  
→ 画面に「アドレスの変更を行います。よろしいですか?」と表示されます。

- 5** 「 設定/ 決定」を押す
- 変更が確定され、「アドレス設定」画面に戻ります。
  - データ変更中は「」が表示されます。

集中制御用アドレス確認・設定

現在のアドレス

Un

戻る 設定

集中制御用アドレス確認・設定

現在のアドレス

Un

設定するアドレス

1

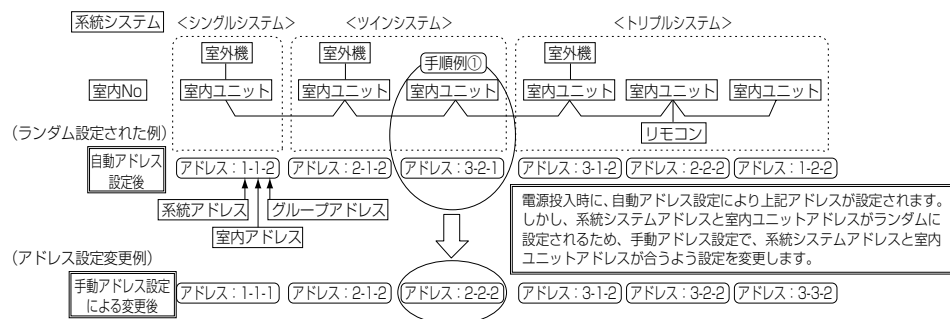
戻る 設定

アドレスの変更を行います。  
よろしいですか？

☒ はい ☐ いいえ

## <手順例> 手動アドレス設定の操作手順 (複合システムでのグループ制御)

室内ユニット停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)



1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「室内機アドレス確認・手動設定」を選んで「 設定/ 決定」を押す  
→ 画面(1)が表示され、グループ全体の室内ユニットのファンとフラップが動作します。

3 画面(1)で「 メニュー」を押す  
→ 「 メニュー」を押すごとに、グループ全体→親機→子機1…の順に表示されます。  
→ 画面(2)が表示され、選択している室内ユニットのファンとフラップが動作し、他のユニットは停止します。

4 画面(2)でアドレス変更を行う室内ユニットを選んで「 設定/ 決定」を押す  
→ 設定画面が表示されます。

5 「」「」を押して黒くハイライトされた表示を移動させ、「」「」を押してアドレスを設定する(画面(3))  
→ 同様の手順で室内アドレス「2」にグループアドレスを「2」に設定します。  
→ 他の室内ユニットのアドレス変更を行う場合は「 メニュー」を押して選択し、同様の手順で設定を行います。

6 各アドレス設定後「 設定/ 決定」を押す  
→ 画面(4)が表示されます。

7 「 設定/ 決定」を押す  
→ 変更が確定され、「アドレス設定」画面に戻ります。  
→ データ変更中は「」が表示されます。

(1)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	-	室内	Gr -
ユニット			
戻る			

(2)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	8	室内	2 Gr 1
ユニット			
戻る  設定			

(3)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	8	室内	2 Gr 1
設定するアドレス			
系統	2	室内	2 Gr 2
ユニット			
戻る  設定			

(4)

アドレスの変更を行います。 よろしいですか？			
いいえ  はい			

## 室内ユニットの No. は分かるが、その室内ユニット本体の位置を知りたいときの手順

室内ユニット停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」の「アドレス設定」から「室内機アドレス確認・手動設定」を選んで「 設定/ 決定」を押す  
→ 画面(1)が表示され、グループ全体の室内ユニットのファンとフラップが動作します。  
→ 動作している室内ユニットがグループ接続されているものです。

3 画面(1)で「 メニュー」を押す  
→ 「 メニュー」を押すごとに、グループ全体→親機→子機1…の順に表示されます。

4 室内ユニットの位置を確認する  
→ 画面(2)が表示され、選択している室内ユニットのファンとフラップが動作し、他のユニットは停止します。

5 確認後「 戻る」を押す  
→ 「アドレス設定」画面に戻ります。

(1)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	-	室内	- Gr -
ユニット			
戻る			

(2)

室内機アドレス確認・手動設定			
現在のアドレス			
系統	1	室内	1 Gr 1
ユニット			
戻る  設定			

### お知らせ

親機と子機の設定については、室内ユニット・室外機の据付説明書やサービスガイドなどをご参照ください。

# 6 試運転

## 試運転の前に

- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。
  - (1) 電源端子台とアース間を 500V メガーで計って1MΩ以上あることを確認します。
  - (2) 室外機のバルブが全開しているか確認してください。
- 起動時のコンプレッサ保護のために、電源を入れ12時間以上通電してください。
- 電磁接触器を押して強制的に試運転することは絶対にやめてください。(保護装置が作動しないため大変危険です。)

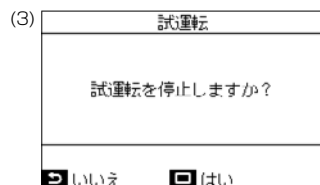
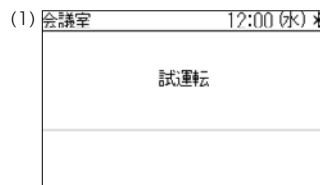
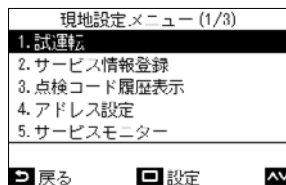
## 試運転の方法

リモコンで、通常操作で運転確認を行ってください。運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。室温がサーモ OFF するような条件では、以下の手順で強制試運転ができます。強制試運転は、連続運転を防止するため、運転を 60 分経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

注) 強制試運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

### 省エネ neo リモコンの場合

- 1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする
- 2 「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「試運転」を選んで「 設定/ 決定」を押す
  - 「試運転を開始しますか?」と表示されます。
  - 「 設定/ 決定」を押すと、試運転が設定され、「現地設定メニュー」画面に戻ります。「 戻る」を2 回押すと画面(1)の状態になります。
- 3 「 運転/ 停止」を押す
  - 運転が開始され、試運転では画面(2)の表示になります。(停止中は画面(1))
  - 試運転は運転モードを「冷房」または「暖房」にして行ってください。
  - 試運転中は温度設定ができません。
  - 点検コード表示は通常どおり行います。
- 4 試運転を終了したら、「現地設定メニュー」画面で「」「」を押して「試運転」を選んで「 設定/ 決定」を押す
  - 画面(3)が表示されます。
  - 「 設定/ 決定」を押すと、試運転は終了し、通常運転を行います。



### お知らせ

試運転開始から 60 分経過後に試運転は停止し、メイン画面に戻ります。

### ワイヤレスリモコンの場合

手順	操 作 内 容
①	エアコンの電源を投入してください。 据付け後初回電源投入時は 5 分間、2 回目以降電源投入時は 1 分間は運転操作を受け付けません。所定時間経過後に試運転を実施してください。
②	リモコンの『運転/停止』ボタンを押し、『運転切換』ボタンで運転モードを「冷房」か「暖房」に、『風量』ボタンで風量を「」にしてください。
③	冷房試運転の場合 『温度』ボタンで「18℃」にしてください。 暖房試運転の場合 『温度』ボタンで「29℃」にしてください。
④	“ピッ”という受信音確認後直ちに、『温度』ボタンを押して「19℃」にしてください。
⑤	“ピッ”という受信音確認後直ちに、『温度』ボタンを押して「18℃」にしてください。
⑥	さらに手順④→⑤→④→⑤を実施してください。 約 10 秒程度でワイヤレス受信部の表示ランプ『運転』(緑)・『タイマー』(緑)・『準備中』(橙)がすべて点滅し、運転します。もしランプが点滅しない場合には②以降の操作をやり直してください。
⑦	試運転を確認したら、『運転/停止』ボタンを押して運転を停止してください。

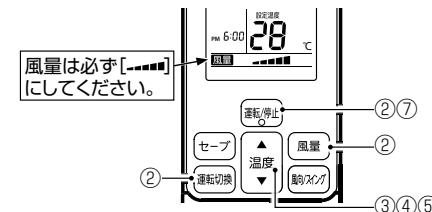
〈ワイヤレスリモコンからの試運転操作の概要〉

冷房試運転：運転→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→19℃

→18℃→(試運転)→停止

暖房試運転：運転→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→28℃

→29℃→(試運転)→停止



# 6 試運転 (つづき)

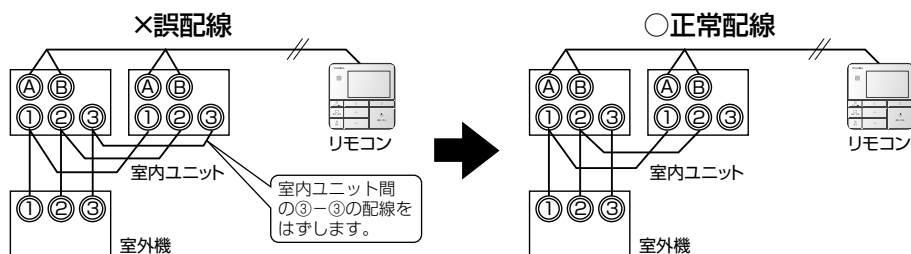
## ●同時ツイン・トリプルシステム（複数の室内機に対し室外機が1台の場合）で次のいずれかの症状により動作しないときの対処方法

- ・点検コード「E04,E18」が発生したとき
- ・点検コードが表示されず室外機が運転しないとき

室内ユニット間配線を誤って①-①、②-②、③-③と3本結線した場合に運転できなくなります。

### 対処方法

(1) 室内ユニット間の配線を正しく接続し直す。



(2) アドレスの初期化

- ・現地設定メニューからアドレス設定を選択する。

現地設定メニュー (1/3)	
1. 試運転	
2. サービス情報登録	
3. 点検コード履歴表示	
4. アドレス設定	
5. サービスモニター	
戻る	設定

- ・アドレス初期化を選択する。

アドレス設定	
1. 室内機アドレス確認・手動設定	
2. 集中制御用アドレス確認・設定	
3. アドレス初期化	
戻る	設定

16

# 7 カスタム機種モニター

カスタム機種の室内ユニットと室外機の各センサー温度や、運転状況をまとめて確認できます。

1 「 メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「 メニュー」と「」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」画面で「」「」「」を押して「カスタム機種モニター」を選んで「 設定/決定」を押す

→ 「」「」「」を押して表示画面を切り換えることができます。

→ グループ接続時は、ユニット選択画面で選択後に「カスタム機種モニター」画面に移行します。

3 確認後「 戻る」を押す

→ 「現地設定メニュー」画面に戻ります。

カスタム機種モニター (1/5)	
リモコンセンサー	24℃
室内吸込温度 (TA)	23℃
室内熱交温度 (ICJ)	13℃
室内熱交温度 (TC)	12℃
室内吹出温度 (TF)	15℃
戻る	AV

次の項目を確認することができます。

室内ユニット/ リモコン関係	単位
リモコンセンサー	℃
室内吸込温度 (TA)	℃
室内熱交温度 (TCJ)	℃
室内熱交温度 (TC)	℃
室内吹出温度 (TF) *1	℃
室内送風機回転数	rpm
室内送風機運転積算時間	h
フィルターサイン時間	h

室外機関係	単位
室外熱交温度 (TE)	℃
外気温度 (TO)	℃
圧縮機吐出温度 (TD)	℃
圧縮機吸込温度 (TS)	℃
室外機熱交温度 (TL)	℃
運転電流	A
圧縮機運転周波数	rps
圧縮機積算運転時間	h
室外送風機回転数 (下)	rpm
室外送風機回転数 (上)	rpm
封入冷媒量チェック	*2
高圧 (Pd)	*2
低圧 (Ps)	MPa

\*1: 室内吹出温度は、室内熱交温度から推定したものです。実際の吹出温度とは異なる場合があります。

\*2: 本機種では対応していません。

### お知らせ

- ・カスタム機種以外では使用できません。「本機種では設定できません。」と表示されます。
- ・カスタム機種であってもデータが表示されない項目がある場合があります。その場合はその項目のデータは「—」と表示されます。表示される項目とその内容については、室内ユニット・室外機のサービスガイドをご参照ください。



# 8 故障診断

## 確認と点検

(1) リモコン表示部に点検コードが表示されず、室外機が運転しない場合は、最初に 16 ページの **対処方法** 室内ユニット間の配線をご確認ください。

(2) エアコンに不具合が発生した場合、リモコン表示部に点検コードと室内ユニット No. が点滅表示されます。

\* 点検コードは運転中のみ表示されます。

点検コードと室内ユニット No. が表示されているときに「戻る」を押すと、「点検情報」画面が表示されます。

「点検情報」画面で「設定 / 決定」を押すと、連絡先が表示されます。  
「メニュー」を押すと、「製品形名・製造番号」が表示されます。



## 点検コード履歴表示

過去 10 件の点検コード、発生ユニット、発生日時を表示します。

1 「メニュー」を押して「メニュー画面」にし、「メニュー」と「▼」を同時に長押し(4秒以上)して、「現地設定メニュー」にする

2 「現地設定メニュー」画面で「▲」「▼」を押して「点検コード履歴表示」を選んで「設定 / 決定」を押す

現地設定メニュー (1/3)				
1. 試運転				
2. サービス情報登録				
3. 点検コード履歴表示				
4. アドレス設定				
5. サービスモニター				
戻る 設定 AV				

点検コード履歴表示			
ユニットコード	日付	時間	
1. 1-1	L30	2022/01/07 05:41	
2. -	-	-	-
3. -	-	-	-
4. -	-	-	-
リセット			
戻る AV			

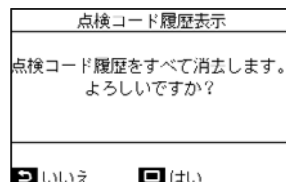
### お知らせ

- 点検コード履歴データは、10件分の履歴が表示されます。10件を越す場合は、古いデータ順に自動消去されます。
- 同じ点検コードが繰り返し発生している場合は、一番最初に発生した日時を表示します。

## 点検コード履歴の消去

1 「点検コード履歴表示」画面表示中に「メニュー」を押す  
→ 「点検コード履歴をすべて消去します。よろしいですか?」と表示されます。

2 「設定 / 決定」を押す



### お願い

リモコンを2台で使用している場合、それぞれのリモコンで履歴の消去を行ってください。

# 8 故障診断 (つづき)

## ●点検コードと点検箇所

ワイヤード リモコン表示部	ワイヤレスリモコン 受信部表示ランプ		代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコン の状態		
表示	赤 緑 黄	点滅 時間	点滅					
C15	●	○	○	同時	蓄熱ユニット異常	室外	蓄熱ユニットが異常を検出したときの蓄熱ユニット異常 代表コード(詳細は蓄熱リモコンで確認)	停止
E01	○	●	●		リモコン親なし リモコン通信異常	リモコン	リモコンの誤設定…親リモコンが設定されていない場合(含む2リモコン) 室内ユニットから信号が受信できない場合	*
E02	○	●	●		リモコン送信不良	リモコン	送り線・室内PC板・リモコン…室内ユニットへの信号送信ができない場合	*
E03	○	●	○		室内⇔リモコン間 定期通信異常	室内	リモコン・ネットワークアダプタ・室内PC板・リモコンおよびネットワークアダプタから 通信がない場合	自動復帰
E04	●	●	○		室内・シリアル異常 IPDU-CDB間通信異常	室内	送り線・室内PC板・室外PC板…室内・外間シリアル通信に異常のある場合	自動復帰
E08	○	●	○		室内アドレス重複 ☆	室内	室内アドレス誤設定…同じアドレスを検出した場合	自動復帰
E09	○	●	●		リモコン親重複	リモコン	リモコンアドレス誤設定…2リモコン制御で2台とも親に設定した場合 (※室内親は警報停止、子は運転継続)	*
E10	○	●	○		CPU間通信異常	室内	室内PC板・メイン・モーターマイコン間のMCU間通信が異常の場合	自動復帰
E11	○	●	○		室内基板やオプション基板間 通信異常	室内	室内PC板とオプション基板間の接続線不良、または基板不良による通信異常の場合	停止
E18	○	●	○		室内ユニット親子間 定期通信異常	室内	室内PC板・室内親子間の定期通信ができない場合、同時ツイン親(主機)子(従機)間の 通信ができない場合	自動復帰
E31	●	●	○		IPDU通信異常	室外	IPDU-CDB間の通信が異常の場合	全停止
F01	○	○	●	交互	室内ユニット 熱交センサ(TCJ) 異常	室内	熱交センサ(TCJ)・室内PC板・熱交センサ(TCJ)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F02	○	○	●	交互	室内ユニット 熱交センサ(TC) 異常	室内	熱交センサ(TC)・室内PC板…熱交センサ(TC)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F04	○	○	○	交互	室外機 吐出温度センサ(TD) 異常	室外	室外温度センサ(TD)・室外PC板…吐出温度センサのオープン・ショートを検出した場合	全停止
F06	○	○	○	交互	室外機 温度センサ(TE・TS) 異常	室外	室外温度センサ(TE・TS)・室外PC板…熱交温度センサのオープン・ショートを検出した場合	全停止
F07	○	○	○	交互	TLセンサ異常	室外	TLセンサのはずれ、断線あるいはショートの可能性あり	全停止
F08	○	○	○	交互	室外機 外気温センサ異常	室外	室外温度センサ(TD)・室外PC板…室外気温センサのオープン・ショートを検出した場合	運転継続
F10	○	○	●	交互	室内ユニット 室温センサ(TA) 異常	室内	室温センサ(TA)・室内PC板…室温センサ(TA)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F12	○	○	○	交互	TSセンサ異常	室外	TSセンサのはずれ、断線あるいはショートの可能性あり	全停止
F13	○	○	○	交互	ヒートシンクセンサ異常	室外	IGBTのヒートシンク部温度センサで異常温度を検出した場合	全停止
F15	○	○	○	交互	温度センサ誤接続	室外	温度センサ誤接続の可能性あり(TEとTS)	全停止
F23	○	○	○	交互	低圧(PS)センサ異常	室外	低圧(PS)センサの出力電圧がゼロを検出した場合	全停止
F28	○	○	○	交互	空清異常	室内	空清ユニットから異常を検出した場合 高湿度などの環境要因によりプラスマ空清を保護停止する可能性があります。繰り返し F28 が表示される場合は、空清を無効に設定してください。	運転継続
F29	○	○	●	同時	室内ユニット 他の室内基板異常	室内	室内PC板…EEPROM異常の場合	自動復帰
F30	○	○	○	同時	人感センサ異常	室内	人感センサから異常を検出した場合	運転継続
F31	○	○	○	同時	室外PC板	室外	室外PC板…EEPROM異常の場合	全停止
H01	●	○	●		室外機 コンプレッサダウン	室外	電流検出回路・電源電圧…電流リリレー制御でmin-Hz到達時、直流励磁以降の短絡電流 (Idc)検出など	全停止
H02	●	○	●		室外機 コンプレッサロック	室外	コンプレッサ…コンプレッサのロックを検出した場合	全停止
H03	●	○	●		室外機 電流検出回路異常	室外	電流検出回路・室外PC板…AC-CTで異常電流を検出した場合、欠相を検出した場合	全停止
H04	●	○	○		ケースサーモ動作(1)	室外	ケースサーモの動作異常	全停止
H06	●	○	○		室外機 低圧系異常	室外	電流・高圧スイッチ回路・室外PC板…Ps圧力センサ異常・低圧保護動作	全停止
H28	●	○	○		室外機 圧縮機モータ巻線 異常	室外	圧縮機のモータ巻線で短絡などの異常が発生した場合	全停止
L03	○	●	○	同時	室内ユニット親重複 ☆	室内	室内アドレス誤設定…グループ内に親機が複数存在する場合	全停止
L07	○	●	○	同時	個別室内ユニットにグループ線 あり ☆	室内	室内アドレス誤設定…個別室内ユニットにグループ接続室内ユニットが1台でもある場合	全停止
L08	○	●	○	同時	室内グループアドレス未設定 ☆	室内	室内アドレス誤設定…室内アドレスグループ未設定の場合	全停止
L09	○	●	○	同時	室内能力未設定	室内	室内ユニットの能力が未設定	全停止
L10	○	○	○	同時	室外PC板	室外	サービス用室外PC板ジャンパー設定違いの場合	全停止
L20	○	○	○	同時	LAN系通信異常	ネットワーク アダプタ集中器	アドレス設定…集中管理リモコン・ネットワークアダプタ…集中管理系通信のアドレス重複	自動復帰
L29	○	○	○	同時	室外機 他の室外機異常	室外	その他室外機異常 1)IPDU-CDB間のMCU間通信が異常の場合 2)IGBTのヒートシンク部温度センサで異常温度を検出した場合	全停止
L30	○	○	○	同時	室内ユニットへの外部異常入力 あり(インターロック)	室内	外部機器チェック・室外PC板・CN80外部異常入力で異常停止	全停止
L31	○	○	○	同時	相順異常 その他	室外	電源相順・室外PC板…三相電源の相順が異常の場合	運転継続 (サーモOFF)

ワイヤード リモコン表示部	ワイヤレスリモコン 受信部表示ランプ		代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコン の状態		
表示	緑	タイマー 黄色	点滅					
P01	●	○	○	交互	室内ユニット 室内ファン異常	室内	室内ファンモータ・室内PC板…室内ACファンの異常(ファンモータサーマルリレー動作)を検出した場合	全停止
P03	○	●	○	交互	室外機 吐出温度異常	室外	吐出温度レリース制御にて異常を検出した場合	全停止
P04	○	●	○	交互	室外機 高圧系異常	室外	高圧スイッチ・IOLが動作した場合、TEによる高圧レリース制御で異常を検出した場合	全停止
P05	○	●	○	交互	欠相検出	室外	電源線の接続不良が考えられます。電源の欠相・電圧のチェックをしてください。	全停止
P07	○	●	○	交互	ヒートシンク過熱異常	室外	IGBTのヒートシンク部温度センサで異常温度を検出した場合	全停止
P10	●	○	○	交互	室内ユニット 溢水検出	室内	ドレンパイプ・排水詰まり・フロートスイッチ回路・室内PC・排水系異常・フロートスイッチが動作した場合	全停止
P12	●	○	○	交互	室内ユニット 室内ファン異常	室内	室内ファンモータ・室内PC板…室内DCファンの異常(過電流・ロックなど)を検出した場合	停止
P15	○	●	○	交互	ガスリーク検出	室外	配管および接続部でガスがリークしている可能性があるため、ガスリークのチェックをしてください。	全停止
P19	○	●	○	交互	四方弁異常	室外(室内)	四方弁チェック・室内温度センサ(TC・TCJ)チェック…暖房時室内熱交センサの温度低下により異常を検出した場合	全停止 (自動復帰)
P20	○	●	○	交互	高圧保護動作	室外	高圧保護	全停止
P22	○	●	○	交互	室外機 室外ファン異常	室外	室外ファンモータ・室外PC板…室外ファン駆動回路で異常(過電流・ロックなど)を検出した場合	全停止
P25	○	●	○	交互	室外機 インバータ基板異常	室外	圧縮機駆動回路素子の短絡などの異常を検出した場合	全停止
P26	○	●	○	交互	室外機 圧縮機過電異常	室外	圧縮機過電時に基板もしくは圧縮機の異常を検出した場合	全停止
P29	○	●	○	交互	室外機 位置検出異常	室外	室外PC板・高圧スイッチ…コンプレッサモータの位置検出異常を検出した場合	全停止
P31	○	○	○	交互	他の室内ユニット異常	室内	グループ内部の他の室内が警報中の場合 E03/L07/L03/L08警報	自動復帰

○：点灯、●：点滅、●：消灯 ☆：このときは自動的に自動アドレス設定へ移行する。  
交互：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が交互 同時：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が同時  
IPDU：圧縮機またはファン用インバーター

# 9 室内ユニット設定確認

お客様に引き渡す前に、据え付けた室内ユニットのアドレスおよび設定を確認し、チェックシート（下表）に記入してください。チェックシートは4台分の記入ができます。据え付けたシステムがグループ制御システムの場合は、他の室内ユニットに付属の据付説明書に分けてシステムごと記入して、ご使用ください。

## 室内ユニット設定チェックシート

室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット		
形名			形名			形名			形名		
室内ユニットのアドレスを確認してください。（確認方法は、本紙の応用制御または室外機の据付説明書、リモコンの据付説明書を参照してください。） (項目コード:系統[12]、室内[13]、グループ[14]) *シングルシステムの場合は、アドレスは記入不要です。											
系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ
各種設定			各種設定			各種設定			各種設定		
室内ユニットの高天井設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)*室内マイコン基板上のショートプラグ差し換えの場合は自動的に設定が変更されています。											
高天井設定(項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 [0000] <input type="checkbox"/> 高天井①[0001] <input type="checkbox"/> 高天井②[0003]			高天井設定(項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 [0000] <input type="checkbox"/> 高天井①[0001] <input type="checkbox"/> 高天井②[0003]			高天井設定(項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 [0000] <input type="checkbox"/> 高天井①[0001] <input type="checkbox"/> 高天井②[0003]			高天井設定(項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 [0000] <input type="checkbox"/> 高天井①[0001] <input type="checkbox"/> 高天井②[0003]		
フィルターサイン点灯時間を変更しましたか。未実施の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
フィルターサイン点灯時間 (項目コード[011]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H[0001] <input type="checkbox"/> 2500H[0002] <input type="checkbox"/> 5000H[0003] <input type="checkbox"/> 10000H[0004]			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[011]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H[0001] <input type="checkbox"/> 2500H[0002] <input type="checkbox"/> 5000H[0003] <input type="checkbox"/> 10000H[0004]			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[011]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H[0001] <input type="checkbox"/> 2500H[0002] <input type="checkbox"/> 5000H[0003] <input type="checkbox"/> 10000H[0004]			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[011]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H[0001] <input type="checkbox"/> 2500H[0002] <input type="checkbox"/> 5000H[0003] <input type="checkbox"/> 10000H[0004]		
暖房シフト値を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k(シフトなし)[0000] <input type="checkbox"/> +1k[0001] <input type="checkbox"/> +2k[0002] <input type="checkbox"/> +3k[0003] <input type="checkbox"/> +4k[0004] <input type="checkbox"/> +5k[0005] <input type="checkbox"/> +6k[0006]			暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k(シフトなし)[0000] <input type="checkbox"/> +1k[0001] <input type="checkbox"/> +2k[0002] <input type="checkbox"/> +3k[0003] <input type="checkbox"/> +4k[0004] <input type="checkbox"/> +5k[0005] <input type="checkbox"/> +6k[0006]			暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k(シフトなし)[0000] <input type="checkbox"/> +1k[0001] <input type="checkbox"/> +2k[0002] <input type="checkbox"/> +3k[0003] <input type="checkbox"/> +4k[0004] <input type="checkbox"/> +5k[0005] <input type="checkbox"/> +6k[0006]			暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k(シフトなし)[0000] <input type="checkbox"/> +1k[0001] <input type="checkbox"/> +2k[0002] <input type="checkbox"/> +3k[0003] <input type="checkbox"/> +4k[0004] <input type="checkbox"/> +5k[0005] <input type="checkbox"/> +6k[0006]		
温度センサー切換を変更しましたか。未変更の場合は [変更なし(無効)] に、変更した場合は [有効] に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
温度センサー切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]			温度センサー切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]			温度センサー切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]			温度センサー切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]		
換気単独設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし(無効)]に、変更した場合は[有効]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
換気単独設定 (項目コード[31]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]			換気単独設定 (項目コード[31]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]			換気単独設定 (項目コード[31]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]			換気単独設定 (項目コード[31]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)[0000] <input type="checkbox"/> 有効[0001]		
通信方式を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし(TCC-LINK.u)]に、変更した場合は[TCC-LINK]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
通信方式 (項目コード[FC]) <input type="checkbox"/> 変更なし(TCC-LINK.u)[0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK[0000]			通信方式 (項目コード[FC]) <input type="checkbox"/> 変更なし(TCC-LINK.u)[0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK[0000]			通信方式 (項目コード[FC]) <input type="checkbox"/> 変更なし(TCC-LINK.u)[0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK[0000]			通信方式 (項目コード[FC]) <input type="checkbox"/> 変更なし(TCC-LINK.u)[0004] <input type="checkbox"/> TCC-LINK[0000]		
天井汚れ低減設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は[設定済]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
天井汚れ低減設定 (項目コード[45][62]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 設定済			天井汚れ低減設定 (項目コード[45][62]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 設定済			天井汚れ低減設定 (項目コード[45][62]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 設定済			天井汚れ低減設定 (項目コード[45][62]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 設定済		
別売品組み込み			別売品組み込み			別売品組み込み			別売品組み込み		
下記別売品を組み込みましたか。組み込んだ場合は各[項目]に「レ」印を付けてください。 (組み込み時に設定切換が必要な場合があります。設定切換方法は、各別売品に付属の取付説明書を参照してください。)											
<input type="checkbox"/> オートグリルキット (項目コード[30])			<input type="checkbox"/> オートグリルキット (項目コード[30])			<input type="checkbox"/> オートグリルキット (項目コード[30])			<input type="checkbox"/> オートグリルキット (項目コード[30])		
<input type="checkbox"/> 吹出口ユニット			<input type="checkbox"/> 吹出口ユニット			<input type="checkbox"/> 吹出口ユニット			<input type="checkbox"/> 吹出口ユニット		
<input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> その他( )			<input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> その他( )			<input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> その他( )			<input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> その他( )		

## お願い

据付け後のメンテナンス時に必要となりますので、必ずご記入のうえお客様に本据付説明書をお渡しください。

# 10 フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い

- 機器の設置時にフロン類を充填した場合は、充填を行った者がフロン類の種類と充填量を表示することが、法的に義務付けられています。
- 設置工事時の追加冷媒量・総冷媒量および設置時に冷媒を充填した事業者名を室外機の追加冷媒記録欄に記入してください。
- 総冷媒量は、出荷時の冷媒量と設置時の追加冷媒量の合計値を記入してください。出荷時の冷媒量は室外機の「装置銘板」に記載された冷媒量です。
- R32の地球温暖化係数(GWP)はそれぞれ「675」です。
- 既に表示がなされている機器の改造を行い、その結果、表示内容に変更を生じた場合、フロン類の数量を再表示してください。



## お願い

### フロン排出抑制法に基づく点検実施のお願い

本製品を所有されているお客様は、フロン排出抑制法に基づく点検を実施してください。「点検記録簿」には、機器を設置したときから廃棄するときまでのすべての履歴を記載してください。費用など点検に関する詳細につきましては、お買い上げの販売店または東芝エアコン調換気相談センターにお問い合わせください。「点検記録簿」に関しては、下記サイト内にありますので、ダウンロードしてご使用ください。  
日本冷凍空調設備工業連合会のホームページ：http://www.jarac.or.jp/

**日本キャリア株式会社**

〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地

SN:EB99851601